

検討項目（案）について

〔発達支援事業〕

◇気になる段階からの支援

「気になる」こどもが発見されても、保護者の受容の問題等があり、なかなか支援につながらないケースがある。

保護者に対する支援（受容への支援）やこどもへの支援につなげる方策を一層進める必要があるのではないか。

〔心身障害者福祉センターでの取り組み〕

○集団生活になかなかなじめないなど「気になる」段階から、自由に親子で参加できる事業として「発達サポート広場事業」を実施している。「発達サポート広場」では、心理、PT，看護師、保育士などの専門職を配置し、親子あそびなどをとおして支援を行っている。

◇ 未就園児支援

発達に心配のあるこどもへの早期からの発達支援は重要。さらにこどもに対する支援に加え、保護者への支援も重要ではないか。

〔心身障害者福祉センターでの取り組み〕

○1歳6ヶ月未満のダウン症児等の親子を対象に「ダウン症児等超早期支援事業」を実施している。

通所：1回/月 療育時間：1時間30分/回

○発達に心配があり保育園や幼稚園等を利用していないこどもを対象に「すくすく教室事業」を実施している。

・2歳児以上（ちゅうりっぷ組とたんぽぽ1～6組）定員72名

通所：2～3回/週 療育時間：2～4時間/回

・1歳6ヶ月以上の1歳児（つくし1、2組）定員24名

通所：1回/週 療育時間：2時間/回

○家庭での療育に必要な情報等を提供する場として、「ひまわり教室」を開催。（平成19年度：10回開催）

◇ 就園児支援

幼稚園や保育園など日常生活の場での「気付き」から発達支援が必要と思われる園児への支援をする場が必要ではないか。

「すくすく教室」を経験したこどもへの継続した支援が必要ではないか。

〔心身障害者福祉センターでの取り組み〕

幼稚園や保育園に在籍している発達に心配のあるこどもを対象に、個別支援およびグループ支援を実施している。

・個別支援：障害の程度や年齢に応じ、医師の指示に基づき、各専門職が評価、助言指導、個別支援を行う。

訓練：1～4回/月 訓練時間：30分～1時間/回

・グループ支援：障害の程度や年齢に応じた編成による小グループに対して専門職が支援を行う。1グループ定員6名で全27グループ。

訓練：1回/週、1回/隔週 訓練時間：1時間15分程度/回